



写真で見る社会科

中朝国境のまち、丹東市

大連から高速道路で約5時間、丹東市は人口約60万人の都市である。明の時代には、万里の長城がこの都市の郊外まで築かれたと考えられている。長城の一部は復元され(虎山長城)、観光地として訪れることができる。写真①の向かって右側がかつての北方異民族の地で、左側が漢民族が支配した明の国である。

丹東市には「中朝国境の町」というもう一つの顔がある。写真①の右下に小さな川が見えるが、実はこれが中朝国境となっており、わずかに数歩で国境となることから「一步跨」という名所? まである。長城に登ると、隣国の北朝鮮の農村地帯が一望でき、国境警備にあたる人民軍や農民の姿を見ることができる。

丹東市の中心には中朝国境の川、鴨緑江にかかる橋「中朝友誼橋」があり(写真②)、物資を運ぶトラックや、貨物列車が行き来している。この橋のたもとには、北朝鮮

の近くまで行くことができる遊覧船が出ており、この船に乗って北朝鮮に近づくと、川で漁をしている人や、こちらに手をふってくる水浴びをしている子どものようすも見る事ができる。しかし川の兩岸に目をむけると、その様子の違いに愕然とする。中国では高層マンションが林立(写真④)しているが、その対岸は稼働しているかどうか分からない工場(写真⑤)や漁船が放置されている状態である。夜になるとその状況はさらに顕著で、丹東市ではネオンもきらびやかなのだが、北朝鮮では家の明かりひとつない闇が広がっている。写真③は夜の友誼橋の様子だが、中国領ではライトアップ、半分から先の北朝鮮領では橋の明かりすらつけられていない。これだけの生活水準の差がわずかに数100mの川幅を隔てて展開しているのである。(帝国書院編集部)

写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。国内・海外で撮影された社会科の写真を、資料編集部「中学校社会科のしおり」係までお送りください。